

お焼香

お焼香

お寺で、また、お家のお内仏でご本尊さまに「南無阿弥陀仏」とみ名をお呼びする時に、お線香やお香を焚(た)きます。ご本尊さまをお線香やお焼香で清浄(しょうじょう)にして、み仏様に向き、大切な時間を迎えましょう。

お焼香で

わたしたちが友だちと「較(くら)べて」負けたと悲しくなったり、「優劣を競い」傷つけあっています。そんな「じぶん中心」に振舞っていることに、気がつくことを教えていただいています。他者と「較べる」ことや勝ち抜くことが大事なことなく、ひとりひとりが尊い「いのち」であることに「気がつくこと」だと、教えていただいているのです。

お線香やお香を焚(た)き、その香りに包まれて、「じぶん中心の悲しさ」に気がつきましょう。

出典 幡谷淳信「三月教案」供養

(『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳)

リライト “サガエさん” こと佐賀枝夏文